ワールド・フレンドシップ・センター機関紙

友 Yu-Ai 愛

2026年 第166号

理事長: 立花志瑞雄
館長: ブラッドリー& スーザン・コックス

〒730-0842 広島市中区舟入中町11-13 クレール舟入中町302
TEL 082-503-3191
Email: office@wfchiroshima.org Website: www.wfchiroshima.org

Website Facebook

ワールド・フレンドシップ・センターに滞在した日々 ベアテ・ブルダー 2
アメリカPAX2025に参加して 甲斐 晶子 3
アメリカPAX2025に参加して得たこと 石川 行弘 4
アメリカPAX2025 参加報告 庄田 政江 5
アメリカPAXで学んだこと 森上 知夏 6
アメリカPAXに参加して 宮本 桜 7
コベントリーデー2025に参加して 堀江 壮 8
ミキオ・トガシ氏の広島再訪 車地 かほり 9
第26回国際フェスタに参加して 山根 美智子 10
アメリカPAX報告会 越智 聡子 11
ホリデー・パーティー スーザン・コックス 12
宿泊者のコメント紹介 13
館長と夕食会 ブラッドリー・コックス 14
「Hiroshimaをつ・た・え・る基礎講座」 服部 淳子 15

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

広島のワールド・フレンドシップ・センターにゲストとして滞在した日々
～3世代にとって特別な体験～　ベアテ・ブルダー

2025年9月、私は3世代からなるグループで日本を訪れました。そのグループは、私の親しい友人の息子、私の姪、姪の夫（3人とも32歳から36歳)、その姪夫妻の16ヶ月の息子、そして私（71歳）で構成されていました。

広島のワールド・フレンドシップ・センターでは、館長のスーとブラッドがとても温かく迎えてくれました。すてきな朝食、豊富な役立つ情報、意見交換をした楽しい時間、それはワールド・フレンドシップ・センターが素晴らしいところである、ということを裏付けている理由でもあり、私たちは、まるで自宅にいるかのように面倒を見てもらいました。

広島のワールド・フレンドシップ・センターのことを初めて知ったのは、1997年に二人の姉とその友人と一緒にいた時のことです。その後、広島のワールド・フレンドシップ・センターのメンバーと、日本とドイツでさらに12回ほど会う機会がありました。

8月6日の広島と、8月9日の長崎での出来事、それによって生じた結果について私が知った、たくさんの知識や情報が、今日まで、平和と核兵器のない世界のために活動する動機付けとなっています。私がWFC（ワールド・フレンドシップ・センター）とシェアした体験は、私生活でも、エッセン（ドイツ）の平和団体での活動でも、私の平和活動の取り組みに、いつも勇気と力を与えてくれます。

だからこそ、この経験を未来の世代にも伝えることが重要だと考えたのです。平和プログラムとWFCのメンバーたちとの出会いは、私の同行者たちにも影響を与えました。

土曜日にWFCの“ポットラックパーティー”で、一緒に食事をしたことが最高でした。おいしい料理がたくさんある素晴らしいビュッフェで、会話は盛り上がり、楽しい合唱がありました。手話で「ふるさと」を歌うことに、私は特に感動しました。生後16ヶ月のクラースは、私たちがその歌を追うように、その歌の手話を自分の手で追っていました。これらの貴重な体験は忘れられないものになりました！もちろん、宮島や広島城などの観光名所も楽しむ時間もありました。

広島での滞在はあらゆる面で素晴らしく、刺激的なものでした。広島のWFCのメンバーとその友人の皆様、心から感謝申し上げます。今後も、あらゆる年齢層の方々に、広島のWFCの特別な雰囲気を体験していただけることを、心から願っております。

バーバラ・レイノルズの使命を偲んで：「一期一会が平和を築く」
新しい友情に心を開き、すべての友人を大切にしていきましょう！
ベアテ・ブルダー (ヴィヴィアン、クラース、ミヒャエル、ミティアと共に)

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved　無断転載、複製を禁ず

アメリカPAX2025に参加して

甲斐晶子

「また必ず来てね！」と強く手を握り、ハグをして別れたアメリカの人々。2週間のアメリカ体験は忘れることのできない感動を私に与えてくれました。

私は、中学校・高校・大学・教会・コミュニティーセンターなど8か所での被爆体験伝承スピーチと小学校3クラスでの絵本の読み聞かせをしました。その間ホストファミリー4家族にお世話になりました。海外での英語でのスピーチも、ホストファミリー宅での滞在も初めてのことで、まったく予想もつかない状態での出発でした。しかし、アメリカの方々は、本当に温かく、心からの親切心で私たちを迎えてくださいました。ホストのお宅では、まるで家族の一員のように対応していただき、楽しい会話の中、おいしいアメリカンスタイルの食事を堪能しました。それだけでなく、私たちの体調を気遣いながら、お住まい近くの美しい場所に連れて行ってくださったり、スピーチを聴きに来て下さったりしました。それは私が今までアメリカに対して持っていたイメージを、大きく変えました。外国を一面的に見てはいけないなあと感じました。

最初のオレゴン州では、自然に囲まれたリタイアメント・ヴィレッジでの滞在でした。ホストマザーが、実は核実験のダウンウィンダーズであり被ばく者であるということを、夫から聞きました。世界中に被ばく者がいらっしゃり、苦しみを持って生きている方々の存在があることを実感しました。大学でのスピーチでは、歴史学科だったこともあり、日本の近代史、なぜ日本が戦争へ突入したのかということに皆関心を持っていました。戦後の日本の状況についても質問がありました。単に復興について聞かれたのではなく、日本人の意識の変化などにも質問が及びました。教会では、被爆者の後遺症や被爆2世の問題、放射線の影響についての質問もありました。皆さん、心から平和な世界、核兵器の廃絶を願っておられ、アートやおりづる制作、音楽などを通して、平和への願いを表現されていました。

シアトルでは、小学校での絵本「アオギリのねがい」の読み聞かせでの子どもたちの反応が感動的でした。「本当の話なの？」「今もアオギリは生きているの？」「お父さんは戦争に行ったの？」「僕のおじいちゃんから戦争の話を聞いたよ」「私は半分日本人なの」…途切れることなく質問や感想がとびかい、大変楽しい時間になりました。そんな中、原爆の威力や恐ろしさ、悲惨さを子どもたちなりに受け取ってくれたと思います。教会では、日本が核兵器禁止条約に加盟しないことや、福島原発事故の放射線影響についても質問がありました。皆さん、現在の事として核の問題をとらえておられました。

オハイオ州では、ウィルミントン大学でバーバラ・レイノルズさんの足跡に触れ、多くの研究者やアーティストと親しい会話・情報交換をすることができました。スピーチを聴きに来て下さり、本当に心からの感想をいただくこともできました。こんなにも多くの方々が、平和を願い、戦争について多方面から研究されているということに驚きました。そして心が震えるような気持になりました。

この企画から実施まで、真摯に進めてくださったWFCの館長ご夫妻、立花さん、服部さん、越智さん、そしてその他すべてのＷＦＣメンバー、そして共にこの旅で精一杯平和への思いを伝えた５名の仲間に、心よりお礼を申し上げたいと思います。この経験をもとに、これからも被爆体験を伝え、広い視野で問題意識を持って自分の活動を深めていきたいと思います。今、世界が戦争への道を歩んでいるように思えてなりません。私個人の力は弱いのですが、あきらめず粘り強く、活動を続けたいと心から思っています。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

2025 アメリカPAXに参加して得たこと
石川行弘（鳥取県原爆被害者の会・事務局長）

今回は、オレゴン、ワシントン、オハイオの3州を訪問し、被爆者として伝えたいことを話す良い機会を与えていただきました。各地ではホームステイ先の方や講演などの事前準備等で世話をしていただいたボランティアの方々に深謝いたします。

講演では、「核兵器と平和について考えよう！」をテーマに、自分の被爆体験や平和とは何なのかについて話すほか、アメリカにも多くの核被害者がいることを知って欲しいと思いました。前年にワシントン州にあるHanford SiteのB原子炉（長崎原爆のプルトニウム製造）を訪ねていたので尚更でした。

最初に訪れたオレゴン州のAmityでは、教会で最初の講演をしました。Linfield大学の図書館では、研究者の人がそっと近寄ってきたので話をしましたが、今のアメリカの大学ではオープンな話ができず、生きづらさが増し、民主主義はどうなるのかなどの動向が察せられました。

ワシントン州のシアトルでは、大学や高校で講演しました。Seattle大学では核問題に詳しい人たちとの話し合いで、いろいろ触発されて有意義でした。残念なことは、サダコ像が足首部分を残して盗難にあっていたことです。国際平和デーの核兵器をなくそう集会が連邦庁舎前であり、その場で挨拶。世界終末時計を例に出し、時刻を遅らせるためにはヒトが少し賢くなることが必要で、人類が地球上に生き残れることを祈りましょうと、結びました。

First Baptist Church(Amity)での最初の講演

シアトルの連邦庁舎前で挨拶

勤勉なお馬さん（Nancyさんのご主人Mikeさんと）

オハイオ州では、バーバラ・レイノルズさんが設立されたWilmington大学平和資料センター50周年記念シンポジウム（3日間）がありました。バーバラさん一家が住んでいた家は初めて訪ねましたが、50年以上前に広島市南観音町にWFCがあったときにお会いしたことがあり、大きな想い出です。大学にはバーバラさんの足跡が多くの資料として残されており、偉大な平和活動家だったのだと、改めて尊い人と思いました。センター所長のTanyaさんや裏方に徹しておられたNancyさんにはお世話になりました。Nancyさんはホームステイ先の方でもあり、ご夫婦で昔ながらの農法を楽しんでおられ、ライムギを育てるのに種は手撒きで、土は馬でならすというもの。今年は午年なので、堂々としたお馬さんを年賀状に使わせてもらいました。

シンポジウムの初日、基調講演とかで話をさせていただき恐縮。他の多くの演者の話も核や平和が中心のテーマであり、密度の高い、実り多い滞在に感謝。ワシントンDCから来た女性（Bridget Moixさん）と話をしたところ、アメリカの核被害者、特に風下住人と言われる人などへの国家の支援が、2年ほど前から拡大しているとか。日本でも多くの戦争被害者に対する国の支援の方法について、継続した運動の必要性を感じさせてもらえました。戦後80年も経っているのにです。「Bombshell」というドキュメンタリー映画にも感銘を受けました。日本でも上映される機会を待っています。これに関しては、言論の自由という民主主義社会における根本が揺らいでおり、トランプ政権による知識層とかマスコミ、一般大衆への伝達機関への締め付けによって現実化していることに不安や怒りのようなものの感ありです。

最後に、びっくりニュースです。シアトルでマリナーズとドジャースの最終戦（シリーズ最後の３連戦第1日目）を観戦した時のこと。WFCから派遣された自分たちがセンターの大きなスクリーンに映され、紹介されました。Rogerさんの計らいで特別扱いかな。驚いたよ！どうも動画は我々のみの所有のようです。(球団から当日の動画を頂きましたが一般公開はされていません)最初はWFCのロゴマークが現れ、日本から平和大使が7人、核兵器と平和について話しに来ているので紹介するとか何とかのアナウンスではと想像。日本被団協のYUKIHIRO ISHIKAWAとか言っていたような？そんな風に聞こえたので良い風に解釈しておきます。次回のアメリカ PAXの成功を祈っています。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

「2025年アメリカ平和使節団」参加報告　　庄田政江

今回のアメリカでの活動は観光旅行では味わえない貴重な体験となりました。
私がお話したのは広島原爆の実相と河野キヨ美さんの被爆体験、暁部隊の兵隊として救護に当たった私の父の体験です。皆さんに暖かく受け入れて聞いて頂いたことに感謝しております。

9月19日羽田出発～23日オレゴン州ポートランド～マクミンビル
バーバラとマイクの家泊

２０日オレゴン州ポートランドの教会で「平和を求めて」という平和と歌の集会に参加し、懐かしいフォークソングを聞いて、一緒に歌い楽しく交流しました。
初めての講話は２２日リンフィールド大学（写真）のクラスとホールで２回、２３日はマクミンビル高校のクラスと小ホールで講和をし、熱心に聞いてもらえ質問もあり交流ができました。
その夜電車でシアトルへ移動し、深夜ロジャー達の車で自宅へ。

9月24日～26日　ワシントン州シアトル　キャシーとロジャーの家泊

２４日カミアク高校の井上先生が担当するクラスで講和をしました。
２５日インターナショナル中学校では日本語クラスで講話をし、池田君と「広島からシアトルへようこそ。」と書いてある前で写真を撮りました。
貴子先生は帰国後生徒達の日英混じりの感想文を送って下さり感激しました。

午後は公園の足から切り取られたサダ子像の前で説明を聞き、再建に向けて募金を集めているスタンレーさんに協力させてもらいました。
像のすぐ近くのクエーカー教会で夕食後講和をしました。２６日は連邦庁舎で上院議員パティ・マレーさんのディレクターに核問題の陳情をして熱心に聞いてもらえました。外では核兵器廃絶集会があり、私達はビラや折り鶴配りで参加。夜はマリナーズ対ドジャースの試合を見に行き、世話役で元館長のロジャー氏の計らいで私達使節団メンバーが大画面に映し出されるというサプライズもありました。

9月27日～10月2日オハイオ州　空軍博物館～ウィルミントン　ベッキーとクレイグの家泊

２７日オハイオ州に飛び、２８日バーバラ・レイノルズの旧宅を見学した後、空軍博物館では「第二次世界大戦を終結させた兵器である。」との記述に無力感を感じました。私は居合わせたアメリカ人女性に声をかけ平和大使として来たことを話すと「ごめんなさい。」と言われて驚きました。父親は零戦パイロットに攻撃され海に投げ出されたが助けられたとのことでした。
ようやくウィルミントン大学に到着。夜は招待された他のゲストと夕食交流。2025年はバーバラ・レイノルズさんが平和資料センターを同大学に設立して５０周年、原爆投下後８０周年に当たり記念シンポジウムが開催され、私達は被爆の実相を伝えるため迎えて頂いたのです。
２９日、オープニングの後、私は午後英語での講和と質疑応答を終え、できる限りゲストの登壇者の講義に参加し交流を図りました。宮本ゆき、ノーマ・フィールド、アン・シェリフ各教授（写真中央）と言葉を交わすことが出来ました。期間中、夜はBombshellというドキュメンタリー映画を鑑賞、監督は是非日本で上映したいと仰っていました。また、イギリス在住の藤倉大さんの音楽と語りのラジオ劇も鑑賞しました。コロンバスに戻り教会で最後の講話をして、ローズメリーとレイの家でアメリカ最後の夜を過ごしました。

帰国後、ウィルミントンで講義を聞いた台湾の准教授、洪鈞元氏に広島現代美術館（写真）で再会しました。3月まで奥様の祖父が広島で被爆し、その足跡を追った映像作品が展示されています。
同時に知り合ったアメリカ在住の台湾人みのりさんの母、広島で被爆した荘田富子さんの思い出の品なども展示されています。映像はみのりさんです。
このような実りある体験ができたのも元館長さん達の人脈と情熱、そしてウィルミントン大学のターニャ・マウスさんの献身的な働きによると深く感謝しています。日米双方の関係者の方達に心よりお礼を申しあげます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

アメリカPAXで学んだこと

森上知夏

私がアメリカPAXを通して学んだことは、大きく分けて二つある。

一つ目は、アメリカの若者が原爆に対して関心を持ち、真剣に向き合っているという事実である。渡航前の私は、アメリカの若者は原爆についてあまり知らず、関心も薄いのではないかという偏見を抱いていた。また、原爆投下をめぐる日米の価値観の違いを強調する報道に触れる中で、被害者である日本と加害者であるアメリカは分かり合えないのではないかと無意識に考えていた。しかし、PAXで小学校から大学まで複数の教育機関を訪問し、プレゼンテーションを行ったところ、多くの生徒・学生が熱心に話を聞き、終了後には原爆に関する質問や「原爆は良くない」という率直な意見を寄せてくれた。派遣先の学校が比較的良心的であった可能性は否定できないが、それでも原爆を無批判に正当化するのではなく、疑問を持ち考えようとする若者の姿に、大きな希望を感じた。

二つ目は、広島の平和教育の意義がアメリカでも共有できたことである。私は、広島で受けてきた原爆・平和教育や、高校時代に部活動として取り組んだ署名活動、被爆証言の聞き取りといった平和活動について紹介した。プレゼン後、現地の方から「アメリカでは平和教育を受けた経験がない人が多いから、あなたの話に皆が興味を持った」と言われたことが強く印象に残っている。教育、とりわけ歴史認識に関わる教育は非常に繊細な問題であるが、それにもかかわらず広島の平和教育が好意的に受け止められたことは、被爆者や先人の思いが国や立場を越えて共有されうることを示していると感じた。

今回の経験から、核兵器廃絶のためには、被害者と加害者という対立構造で語るのではなく、一人ひとりが自ら考え、発信していくことが不可欠であると実感した。現在は兵庫県ユニセフ協会の学生チームに所属し、核兵器廃絶に関する活動にも携わっている。今後も、自分が暮らす地域や大学を拠点に、平和について発信し続けていきたい。次世代を担う若者の力が、世界を動かすことができると信じている。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

アメリカPAXに参加して

宮本　桜

私は今回のアメリカPAXで様々なことを経験しました。英語でのスピーチや絵本の読み聞かせはもちろん、ホストファミリーとの交流など、経験すること全てが私にとって初めてであり、得られたものは大きかったです。私はアメリカPAXに参加するまで、アメリカの人は自分の話を聞いてくれるか不安でしたが、そんな偏見は杞憂でした。このPAXは、私の価値観を変える大きな出来事となったのです。

私がPAXの中で一番楽しみにしていたことが、シアトルのサダコ像の見学です。ニュースで「シアトルのサダコ像の腕などが、お金のために何者かに切断され奪われた」ということを聞き、実際に現地を訪れ、自分の目で現状を見てみたいと思っていました。そして今回訪問する機会をいただけ、実際に目で見ることで、より自分事として問題を捉えることができたと思います。自分に何ができるかはまだ詳しくわかりませんが、危機管理を持つことができて良い機会だったのではと思います。このエッセイの末尾に、足首だけを残して切り取られたサダコ像の写真を貼り付けています。

そして痛感したことが「平和を願う意志は万国共通」だということ。私たちのプレゼンを終えた後は、たくさんの方が平和大使たちとプレゼンの感想を伝え合ったり、内容について語り合ったりしてくださいました。これは本気で平和について考えているからこそだと思います。「国が違う」ということだけで話し合うことを放棄するのではなく、違いを踏まえて双方の観点から話し合うことが大切だと理解しました。英語もそうです。「自分の英語じゃ伝わらない」「きっと間違えてしまうから何も言いたくない」と怖気付くのではなく、「間違えても良いから何か言ってみる」というマインドが相互理解につながっていくと気づきました。

私はこの経験を生かし、自ら積極的にさまざまなイベントに参加しようと思っています。取材の枠に囚われず、イベントを通してさまざまな方と交流をし、輪を広げていきたいです。会話は平和を創る大きな一歩となります。たくさんの人とたくさんのことについて会話をし、自分なりの平和を築き上げていきたいです。

最後になりますが、このような貴重な経験をさせていただいたこと、アメリカPAXをサポートしてくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

コベントリー・デー2025に参加して

堀江　壮

この会に参加したのは今回で3回目、場所（留学生会館）は、昔ビルマと中国の留学生に日本語を教えた、思い出深い場所でもある。
最初に、私はピースクワイアの一員として、「世界の命＝広島の心」を力いっぱい歌った。
この曲は、美鈴が丘小学校の児童と平和教育の一環として何度も歌い、また毎年8月6日には、平和公園で歌っているので、私にはめずらしく楽譜を見ないで歌える素晴らしい曲である。
中学生の平和への取り組み、今後も継続してほしい。
高校生の神楽、大変すばらしかった。アンサンブル花音の演奏、おなじみの曲ばかりで楽しめた。
英国文化、スクエアダンスの会の紹介では、素晴らしいダンスを見せていただき、昔を思い出した。
私は、スクエアダンス、ソーシャルダンス、ラウンドダンスを昔、たしなんでいた。
リーダーさんに促されて、ルンバに挑戦した。昔のようには動けなかったが、身体が覚えていて、3人の方と踊ることができ、うれしかった。
こうした機会を通じて、多くの方が平和について考えるきっかけとなるといいな、と思った。
平和をもたらす和解の大切さをつくづく思う今日この頃である。
ウクライナ、ガザ、ミャンマーにおいて、この1年で25万人が犠牲になられたとのこと、かの地に一日も早い平和がおとずれることを、戦争の悲惨さを知っているものとして、願わずにはおれない。

堀江壮さんはWFCで多くのゲストに被爆の話をされています

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

ミキオ・トガシ氏の広島再訪　　車地かほり

　WFCの古い友人であるミキオ・トガシ氏が昨年（２０２５年）の11月初旬に広島にお出でになりました。そして数日間、滞在して旧知の友人・知人に会ったりWFCやシュモーハウスなどを訪問されました。その際、WFCは平和公園のピースガイドをしたり原爆資料館やバーバラ・レイノルズの碑に案内したりしました。４日の午後には舟入中町の新しいWFCの施設にお招きして館長夫妻や理事長はじめ数人のWFC関係者と懇談の時を持ちました。この時、ミキオさんはタブレットでたくさんの古い写真を見せながら我々にご家族やご自身の話をして下さいました。ミキオさんのお父様はウィリアム・トガシ（通称ウイリー）という方でロサンジェルス生まれの日系米人でした。ウィリアムさんは１０代で両親と共に広島へ移住し広島の学校に通われました。その後、青山学院大学で英語を学び将来を嘱望されていましたが、第二次世界大戦が勃発し日本軍に徴兵された為にアメリカの市民権を剥奪されるという苦い経験をされました。戦後は英語の能力を活かして原爆傷害調査委員会（ABCC) などで働かれました。この頃、クウェーカー教徒（キリスト友会）の会員と接点を持つようになり平和と国際理解の活動に献身するようになりました。彼は大きな平和運動の舞台で通訳や理事を務める一方で身近なコミュニティでの小さな奉仕も決して欠かしませんでした。トガシさんご一家は広島におられた頃、一時期、牛田のシュモーハウスに住んでいたそうです。ミキオさんが十年ぐらい前に来広された時、シュモーハウスを大変懐かしがられて女学院大学の近くにある家を一緒に見に行った事があります。残念ながらその家は今では取り壊されて残っていません。

　ウィリアム・トガシ氏は１９５７年に米国に戻り、翌年には妻と子供達も渡米しました。彼は良心的兵役拒否者として１９６１年２月に米国の市民権を再取得しました。ほぼ同時期に彼と二人の年上の子供達はワシントン・フレンズ会（クウェーカーの集会）に加わりました。彼は彼自身の所属する集会より広いクウェカーコミュニティである「平和と社会秩序委員会」やワシントン平和センターの理事、ワシントンを訪れる日本人への通訳、ヒロシマのワールド・フレンドシップ・センターとの連絡係として惜しみなく奉仕しました。またバーバラ・レイノルズの企画した世界平和巡礼団が米国を訪れた際にも受け入れ側として協力を惜しみませんでした。ウィリー・トガシ氏は静かで控えめな振る舞いの中に穏やかなユーモアのセンスを兼ね備え思いやりと分かち合いの心を持っていました。１９７７年にこの世を去られましたが、彼が日米の架け橋としてまた平和の探求者として歩んだ道は多くの人々の心に深く刻まれました。
ミキオ・トガシ氏は今回の訪日に当たりピース・リソース・センター（広島・長崎記念文庫　略称：PRC)　のターニャ・マウス所長ともメールのやり取りをしておられます。というのはミキオさんは昨年の２０２５年８月６日にPRCを訪ねてターニャさんにも会っていらっしゃるからです。
　WFC訪問の翌日、ミキオさんはご先祖の墓参りに行かれ親戚の方々と交流されたようです。WFCの素晴らしい友(フレンズ）の一人であるミキオ・トガシさんが何時までもお元気で又広島にお出でになる際には必ずWFCに寄って頂き我々と旧交を温めてもらいたいと心から願っています。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

第26回 国際フェスタに参加して

山根美智子

「国際フェスタ」は、多文化共生、国際交流・協力、外国文化に関する様々な活動に、楽しみながら触れることができるイベントです。主に広島市内で国際交流などを続けている市民団体などが中心となって2000年から毎年開催されています。WFCも11月16日開催された、第26回の国際フェスタ2025に参加しました。

会場は、他の12の市民団体と国際会議場地下２階のヒマワリで、ブースを構えて、２枚のパネルにアメリカPAX2025の展示をしました。アメリカPAXに参加された甲斐晶子さんと宮本桜さん、そして石川行弘さん（広島で４歳の時に被爆）も鳥取市から、庄田政江さん（被爆２世、広島市の被爆体験伝承者）も大阪市から参加いただきました。

Sueさんの優しい微笑みが、若者や子供達にも届き、原田東岷先生が言われていた平和の瞬間でした。来場者と話をする機会がたくさんあり英語クラスの事を宣伝する良い機会となりました。韓国PAXが2003年から始まったことも伝えました。

来場者がおよそ150人いたと言うのは、本当に嬉しい事です。田中ゆき子さん手作りの平和人形と皮製品は、来場者の顔を満面笑顔にする力を感じました。ゆき子さんのWFCへの貢献には、本当に感謝あるのみです。

ワールド・フレンドシップ・センターは、何か大きなイベントをするときには、皆が一致団結してやり遂げる底力を、今までも感じてきました。

素晴らしい館長と理事、そして仲間たちに恵まれて、これからも自分のできることで、ワールド・フレンドシップ・センターと関わっていきたいと、改めて思われるイベントでした。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

アメリカPAX報告会

越智聡子

12月7日(日)、おりづるタワー10階のエソール広島で「アメリカPAXみんなの報告会」を開催しました。PAXはPeace Ambassador eXchangeの略で「平和使節交換」のことです。
平和使節団は2025年9月19日～10月3日まで、アメリカの3州（オレゴン・ワシントン・オハイオ）を訪問しました。参加者6名は高校生から80代まで幅広い年齢の方々です。どなたも熱心に平和活動に従事され、海外でも活動したいと意欲を高めておられました。

6名の発表者

石川行弘	**被爆者　鳥取県原爆被害者の会事務局長**
庄田政江	**被爆体験伝承者　大阪在住　被爆2世**
甲斐晶子	**被爆体験伝承者　被爆2世**
池田三十朗	**スポーツインストラクター　被爆3世**
森上知夏	**関西学院大学1年　被爆3世**
宮本桜	**崇徳高校2年　新聞部部長**

報告会では使節団のメンバー全員がスライドを使って、それぞれ経験したことや学んだことを報告しました。
オレゴン州とワシントン州では全員が7回～10回のプレゼンの機会があり、小学校・中学校・高校・大学と若い世代に話す機会を多くいただきました。また、教会や高齢者施設等で地域の人々と交流することもできました。
９月26日に、シアトルの「Tモバイルパーク」でマリナーズ対ドジャーズの試合を観戦しました。偶然にもこの日が国連で定められた「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」にあたり、球場の大型スクリーンでWFCと被爆者の石川さんが紹介されました。多くの方にWFCを知ってもらえる機会をいただき、心から感謝しています。
オハイオ州のウィルミントン大学では、平和資料センター（PRC）創立50周年で、平和シンポジウムと創立記念「証言者としてのアーカイブズ」国際学術会議 が開催され、プレゼンを行いワークショップにも参加しました。

質疑応答の時間には来場者からこんな質問がありました。「平和活動で核廃絶の署名運動をしても、一筆も署名をもらえない日がある。意欲を持ち続けるにはどうしたらいいでしょうか？」
使節団の一人が答えました。「平和を崩してはいけない。戦争で得るものは何もない。そのための行動を自分でも信念を持って、市民の活動としてやっていることを示していきたい。」 信念という言葉が重く響きました。
一人の力は小さいけれど、諦めないで続けていけば草の根の市民活動が広がって新たな出会いや絆が生まれ、次の一歩が踏み出せるのではないかと感じました。

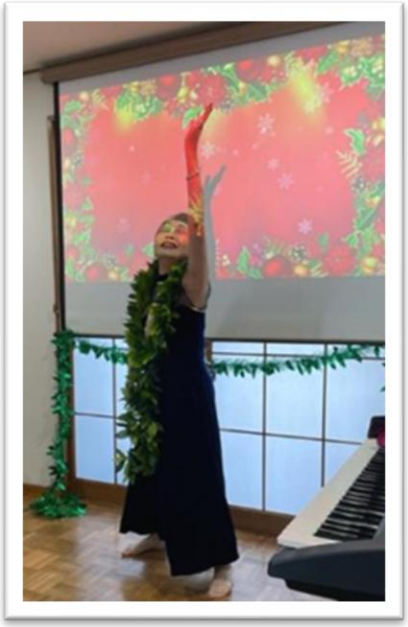
約60名が来場

中国新聞やNHKの取材もありました

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

ホリデー・パーティー

スーザン・コックス



今年のホリデーパーティーは、12月20日(土)に401教室で開催されました。事前に会場の飾り付けが行われ、クッキーも焼きました。広い畳の部屋ではクッキーやスナック、ピザなど様々な食べ物を、館長たちは温かいザクロのパンチや、お茶や飲み物を用意しました。

リビングは交流とパフォーマンスの場として使われました。英語クラスや興味のある方々が観客の前でパフォーマンスを披露する機会となりました。みんなで才能豊かな活気あるショーを堪能しました。火曜午前クラスから参加した幸江さんは、美しいハワイアンダンスを披露。さらに3人の男性を説得し、衣装を着て共演してもらいました。男性陣のダンスの腕前を皆さんはご存知でしたか?すぐに快く参加してくださり感謝します。見ているだけで本当に楽しかったです。来年もアンコールがあるといいですね！

水曜クラスは翻訳クラスと共に、名曲「クリスマスにカバが欲しい」をカラオケ形式で披露しました。歌詞に登場する様々な動物を表現するビジュアルを作り、掲げて見せたのです。このアイデアはロアルド・ダール著『巨大なワニ』から着想を得たもので、主人公のワニはカバを友達にしています。とてもキャッチーな曲で、歌うのがとても楽しいです！来年のクリスマスにぜひ歌ってみてください！

二つのクラスでゲームの出し物がありました。木曜日のクラスではジェスチャーゲームが行われました。メンバーはクリスマスに関連する様々な物や活動を身振りで表現しました。嬉しいことに、素晴らしい役者たちが揃っていました！すべての単語が当てられました！金曜日のクラスではグループで「Simon Says」のゲームをしました。サイモンが言う時だけつま先に触れましょう！皆で大笑いしながら、素晴らしい時間を過ごしました！

幸江とドットが一緒に歌を歌い、皆が交流や食事を楽しみ、贈り物と友情の季節を祝いました。イベントは『クリスマスの前の夜』の朗読で締めくくられました。今年のイベントにご協力・ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。
来年の楽しい企画をぜひ考えて、ご参加ください。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

宿泊者のコメント紹介（WFCゲストブックより）

2025年11月15日 アメリカ・オハイオ州
温かいおもてなしをありがとうございました。素晴らしいホストです。
（被爆証言をして下さった）壮さん、豊富な知識で親切にガイドをしてくださった真理子さん、美穂さんにも感謝します。
平和で美しい広島に、またいつか訪れたいと思います。ご健闘を祈ります！
【ロリ】

2025年12月19日 アメリカ・オレゴン州
WFCと広島で進められている平和活動を体験できたことは、何という贈り物でしょう。皆様の親切と温かいおもてなしに感謝します。数多くの物語と歴史に触れ、目にすることができて素晴らしかったです。
【ミカとミラ】… パークスとポーラによって結ばれて

2025年12月22日～24日　スイス
スーとブラッドの温かいおもてなしとお話に感謝します。広島の被爆者である松本滋恵さんとの対話は大変有意義でした。原爆以降の歴史と、彼女自身の人生、そして日本人にとっての変化について教えていただきました。平和公園で大変充実した案内をしてくださった庸子さんにも感謝します。
【マーレンとアルベルト】

2026年1月4日～7日 アメリカ・ミシガン州
広島での滞在は実に楽しく、また非常に有意義なものでした！スーとブラッドはWFCの素晴らしいホストであり、原爆の歴史と世界平和に向けた継続的な取り組みに深く触れる機会を与えてくれたことに感謝しています。ブレザレン・ボランティア・サービス（BVS）との交流もまた楽しいものでした！
【タミコ、MC、モリ】

被爆証言者　松本滋恵さん

被爆証言者　堀江 壮さん

ゲストのコメントに力をもらっています💛💛

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

館長と夕食会　ブラッドリー・コックス

1月24日、ゲストハウスのリビングで、初めての「館長と夕食会」が開催されました。館長夫妻のブラッド・コックスとスー・コックスが主催したこのイベントでは、アメリカ料理が振る舞われたほか、二人が近年訪れた米国の国立公園についてのプレゼンテーションも行われました。
料理はスーが担当しました。夕食は、タコスディップ、コールスローを添えたバーベキューチキン、マカロニ＆チーズ、そしてデザートにアップルパイでした。

プレゼンでは、米国の国立公園システムと国立公園の写真が紹介されました。まず、自宅から最も近い駐車場があるブルーリッジ・パークウェイとピークス・オブ・オッターから始まりました。そこから話を進め、2022年に北西部の各州を巡った横断旅行について詳しく語りました。そのルートには、グランド・ティトン、イエローストーン、クレーター・レイク、グレイシャー、バッドランズ各国立公園に加え、道中の数多くの小規模な公園も含まれていました。これはスーにとって初めての「横断」ドライブであり、約5週間かけて車で13,840kmを走破しました。

次に紹介したのは、2023年の南西部ツアーです。このツアーでは、グランドキャニオン、ザイオン、ブライス、サグアロ、ホワイトサンズ、カールズバッド洞窟など、数多くの国立公園や小規模な観光スポットを巡るほか、アルバカーキ・バルーンフェスティバルへの参加や、ネイティブアメリカンの部族居住地にあるアンテロープキャニオンも訪問しました。

この英語プレゼンを通じて、参加者は英語力を磨く機会を得るとともに、異国の料理を味わい、館長たちの旅行への情熱に触れることができました。さらにWFCの資金集めも行うことができました！

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず

「Hiroshimaをつ・た・え・る基礎講座」２０２５年度３回開催を通して学んだこと

服部淳子

WFCでは、2017年度から被爆体験継承事業として、「Hiroshimaをつ・た・え・る基礎講座」を開いています。被爆体験やその伝承、戦争体験や平和に関連した執筆活動や対話的芸術を通じた活動などのご経験を持つリソースパーソンをお招きして、「つたえること」をテーマに、講演やフィールドワーク等を行っています。毎回幅広い年代から多くのご参加をいただき、９年目になります。皆様ご参加、ご支援くださり、ありがとうございます。本年度は中央公民館を会場に次のように３回開催しました。各回の学びを振り返り、皆様とご一緒に次年度へつなげていきたいと思います。

・第１回７月２６日(土)「”つたえる“ということ―杉浦圭子」 講師：杉浦圭子さん（被爆体験家族伝承者）
１３歳で被爆した父の体験を受け継ぎ、広島市の「家族伝承者」として活動している杉浦さんから、アナウンサーという伝えるプロフェッショナルからいかにして、「ヒロシマをつたえる」活動に歩まれるようになったか、ご自身の「つたえる」旅路を通して、どのような体験や学びが今の活動に影響を与えたのか？お話を聞きました。特に、アナウンサー時代に被爆者から教わった「すべての人の命の重さに違いはない。」という、「ヒロシマの羅針盤」とも言えるこのメッセージを聞き手、特に次世代に伝えていきたいとの言葉に、ヒロシマを伝える活動に関心をお持ちの、或いはその道を既に歩まれている参加者から、「励ましになった」、また「みんな、大切なひとり」という江口保さんの言葉が心に響き、自分にできることからやっていきたい等、大きな反響がありました。

・第２回１０月２５日(土)「被爆の実相とは何か―デジタル・AI社会の次世代に記憶を託すために―」
講師：ファンデルドゥース瑠璃さん（広島大学平和センター長、大学院人間社会科学研究科准教授）
「被爆の実相」とは何か、AI社会で次世代にそれを語り伝えるとき、どのようなことが相手に響くのか、FAKEニュース等もあふれる中で、1回の講座に収まりきらないほどの濃密な内容でした。参加者から「重要なテーマだ。被爆直後の言論統制を経て、80年間FAKEな情報と闘ってきた地域ともいえるのではないか。自分たちも被爆の実相がどう伝わっているか注視しながら発信していかないといけない。」「実に興味深かった。ぜひ続編も期待したい。」「文化的暴力や差別が、被爆の実相に向き合うことを阻んでいる」「それぞれの被爆者が体験し感じた出来事について、人によって異なる事が語られてきた現実も丸ごと含めて、（実際蒸発していなかったかもしれないが、蒸発したと表現したくなるほどの出来事だったということも含めて）被爆の実相として伝えられないか考えた」等のフィードバックをいただきました。

・第３回2026年３月２１日(土)　「『ヒロシマ』とは何か―みなさんと一緒に考える―」講師：渡部朋子
（特定非営利活動法人ANT-Hiroshima 理事長）
「被爆体験を生み出した人間の営み。その様々な記憶と記録を受け継ぎ、ヒロシマから世界に何を伝えていくか、改めて参加者と共に考えたい。」と語る渡部さん。被爆体験を原点に時空間を広げて活動。ヒロシマに向き合うことは自分自身と向き合うこと。ヒロシマは歴史上の事件ではなく、生きものであると語られました。「記録なくして、記憶なし」ヒロシマを探す旅は、自分自身を探す旅―朴壽南監督の映像証言ドキュメンタリー『もうひとつのヒロシマ～アリランのうた～』(1986)を上映されました。参加者から「学校で学べなかった深い内容。もっと平和や過去の戦争について学ぶ機会が増えたら。」(１０代)、「ヒロシマの被爆体験を原点にそれを空間の内外に広げアジア各地で活動されてきたこと、現地での出会いを通じてまたさらにヒロシマを探究されてきたことが今日の活動につながっているのではないか」等のご意見を頂きました。

Copyright © NPO World Friendship Center 2026 All Rights Reserved 無断転載、複製を禁ず